



福祉の授業で盲導犬を知って学んで 共生社会を考える きっかけに



3月7日に東京都の江東区立深川第一中学校で開催した「盲導犬小中学校キャラバン」の一幕。協会は、誰もが暮らしやすい社会を実現するため、子供たちの教育に力を入れています。その一つが、実際に盲導犬を見てもらい、盲導犬や視覚障害を正しく知ってもらう活動です。今回は盲導犬ユーザーの藤本さんと盲導犬ウクルが同校を訪問。視覚障害者が介助者の肩や肘につかまって歩く手引き歩行を、生徒たちに体験してもらいました。最初は戸惑っていた生徒も、次第に「進みます」など積極的に声をかけられるように

「いのち輝く未来社会」を目指して

今年、昭和100年、戦後80年という節目の年です。同時に、1825年に点字が発明されてから、ちょうど200年に当たります。パリの王立盲学校の生徒であったルイ・ブライユは、軍隊で使われていた夜間でも指で読める文字をヒントに、点字のアルファベットを作りました。

本年、大阪では「いのち輝く未来社会のデザイン」をテーマに「大阪・関西万博」が開催されています。当協会も参加する共同事業体「ビジョン・コンソーシアム」※は、「点字考案200年 視覚障害者の世界を体験する」と題したコンテンツを一定期間、展示しました。多くの人に視覚障害者の困難への気づきを提供するために、出展したものです。

近年の万博は、先進技術の展示に限らず、人類が直面する課題の解決を追求する場ともなっています。今回の出展は、その流れを汲んで世界に向けて発信した形です。

社会のDX化が進む中、ネットショッピングや、マイナ保険証利用時の暗証番号等の入力、さらには飲食店、小売店等のセルフレジやタッチパネルでの購入などで、視覚障害者がかえって困難に直面する場面が増えています。「改正障害者差別解消法」が施行され、全ての事業者に障害者に対する「合理的配慮」が義務付けられてから1年。「いのち輝く未来社会」を目指す万博の開催を機に、視覚障害者を誰一人取り残さない社会の実現に向けて、役職員一同更に進んで参ります。

※「ビジョン・コンソーシアム」：今年1月に毎日新聞社が設立。視覚障害に関する体験の提供などを通して、よりインクルーシブな社会の実現を目指す共同事業体



公益財団法人
日本盲導犬協会
理事長
金高雅仁

日本盲導犬協会の歩み 2025.1.1 ~ 3.31

- 1月16日 第10回常任理事会
- 1月27日 協会内職員研究発表大会
- 2月14日 第11回常任理事会
- 2月28日 島根あさひ訓練センター「盲導犬新ユニット出発式」
- 3月5日 第12回常任理事会
- 3月21日 第4回理事会



2月21日 宮城県民共済協賛のPTA行事として、山元町立山下第一小学校で「盲導犬小中学校キャリアプラン」を実施。親子で理解を深めました。



2月24日 協会を支えるボランティア活動を知ってもらうため、PWや引退犬飼育ボランティアも参加し、イオンモール浜松志都呂で「盲導犬もっと知ってキャンペーン」を実施しました

1月11日 戸田中央メディアセンターが補助犬の受け入れ研修会を開催。協会職員が関連法などを解説し、誘導体験も実施しました



各センター活動報告(1月~3月)

(2025年3月31日現在)

	神奈川訓練センター	仙台訓練センター	富士ハーネス	島根あさひ訓練センター	
訓練・視覚障害サポート	共同訓練	7回	1回	3回	0回
	パピーレクチャー	22回	7回	13回	2回
	パピーウォーキング修了式	2回	1回	2回	1回
	ユーザーフォローアップ	33回	13回	17回	14回
	盲導犬説明会/盲導犬体験歩行会	10回	3回	5回	1回
リハビリテーション	各種オンラインセミナー		3回		
	短期リハビリテーション	1回	1回	0回	0回
普及推進活動	その他リハビリテーション	116回(107人)	232回(225人)	60回(102人)	30回(18人)
	受け入れセミナー	5回	9回	7回	3回
	小・中学生向け実演	25回	19回	7回	15回
	一般向け実演・贈呈式・募金活動等	31回	12回	22回	21回

メディア掲載件数

- テレビ・ラジオ 39回
- 新聞 75回
- WEB 93回
- その他(雑誌など) 23回

主な放送掲載

- 1月6日 47NEWS他WEB3件 「協会による事業従事者への意識調査の結果、ユーザーを受け入れる意思を持つ人が半数」との記事掲載
- 1月10日 中国新聞 島根あさひ社会復帰促進センターが行う「盲導犬パピープロジェクト」について掲載
- 1月21日~23日 愛媛新聞、テレビ2件、WEB2件 愛媛県伊方町立三崎小学校で「盲導犬学校キャリアプラン」児童35人が障害者への理解深めたと紹介
- 1月9日・10日 文化放送ラジオ「文化放送ロービジョンプロジェクト」で「ロービジョンケア・ハブ」に関する協会職員のインタビュー紹介
- 1月30日 毎日新聞プラスリリース、毎日新聞社が視覚障害者と社会をつなぐ非営利共同事業体「ビジョン・コンソーシアム」の設立を発表
- 2月4日 富士宮市立中央図書館「ブックちゃんのみや探検」(地域学習資料)で富士ハーネスや盲導犬を紹介
- 2月5日 チバテレビ、他WEB2件 千葉県茂原市立茂原小学校で協会職員とユーザーが児童約40人に盲導犬への理解を呼びかけたと紹介
- 2月8日~10日、12日、28日、3月9日 日本経済新聞他新聞18紙、WEB8件 ユーザーを受け入れる側の不安解消のため、協会がイベントなどを行っていることと紹介
- 2月23日 東京新聞 富士ハーネスが2026年に開所20周年を迎えることを紹介。佐野センター長が盲導犬や富士ハーネスの役割を解説
- 3月3日 河北新報、テレビ2件、WEB4件 協会職員が講師を務めた仙台市でのバス利用講習会(実車を使用)を紹介

※協会ホームページにも毎月の放送・掲載情報を公開しています。順次更新しますのでご覧ください。

TOPICS!

主なできごとの中からピックアップ

神奈川訓練センターの医療・繁殖棟と犬舎棟を増改築 人も犬もより快適に

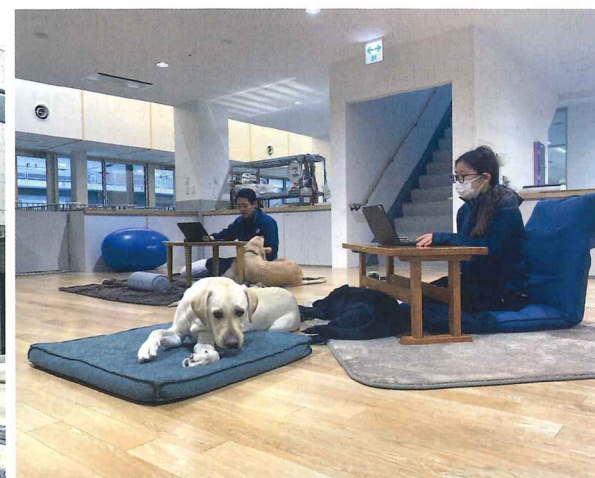
1997年に開設した神奈川訓練センターでは、2023年から建物や設備の修繕や増改築を進めています。

2024年12月、医療・繁殖棟が新たに完成しました。2階建てで医療室、繁殖室、トレーニングルーム、テラスを備えています。今年2月には、犬舎棟を改築しました。

新犬舎は、犬がより健康で快適に過ごせるよう、防疫や温度湿度管理のための設備を整え、明るく開放的です。職

員がどこで仕事をしていても犬たちに目が届くよう設計されていて、犬にとって落ち着ける空間になっています。

今春以降は事務所のある訓練棟を修繕して、今年の秋頃には神奈川訓練センターのすべての増改築が完了する予定です。新しくなった施設での盲導犬育成により、協会は視覚障害者福祉のいっそうの充実を図っていきます。



医療・繁殖棟に設けたテラスの下が広い空間になっていて、雨や日差しを避けて訓練や移動準備ができます。犬舎棟に新たに設けた、家庭に近い環境の空間です。訓練犬が待機の練習中

首長に協力を訴え 盲導犬や視覚障害の理解促進へ

協 会では、盲導犬ユーザーが暮らす市区町村の首長を訪ね、盲導犬や視覚障害に対する理解促進をお願いする活動を行っています。今年に入って、東京都板橋区、群馬県高崎市、茨城県日立市、富山県黒部市など合計9つの市

区町村へ足を運び、首長を訪ねました。1月6日、東京都23区では初となる首長訪問を実施。板橋区内在住のユーザーらと共に板橋区役所を訪れ、坂本健区長と面会しました。協会職員から受け入れ拒否の実態を伝えたあと、ユーザーから「街の中で市民によ



黒部市役所を訪問。右から武隈義一黒部市長、松原利光さんとスキップ、佐野智浩富士ハーネスセンター長

る声かけサポートがあると心強い」と視覚障害への理解や周知をお願いしました。坂本区長は「ユーザーと協力して啓発活動をしていきたい」と語り、ユーザーの横を歩いて誘導する手引き体験にも挑戦しました。2月21日には富山県黒部市の武隈義一市長を訪問。市内で受け入れ拒否があったことを伝えました。これを受けて、武隈市長は「広報誌での理解促進などを検討したい」と述べました。各自自治体との連携を今後も強化していきます。



ユーザーと盲導犬と一緒に板橋区役所を訪問。中央が坂本健区長、左は福田佳代神奈川訓練センター長、右は押野まゆ協会職員

ユーザーと支援者が一堂に会して 盲導犬新ユニット出発式を開催

2月28日、ホテルグランヴィア広島で、島根あさひ訓練センターの「盲導犬新ユニット出発式」を開催しました。新たなパートナーとなる盲導犬との共同訓練を経て、2023年度に歩み始めた3組の盲導犬ユニット。その出発を祝い、多くの支援者が駆けつけました。

小雨が降る当日、1組の盲導犬ユニットは会場のホテルまであと少しのところまで方向を見失ってしまったのですが、周囲の助けも借りて、なんとか無事にたどり着くことができました。慣れない道でも、盲導犬と一緒に困難を乗り越えて会場に到着できた喜びを、職員と分かち合いました。

式典では、ユーザーから「盲導犬と歩くようになってまったく怪我をしなくなった」「一緒に店に行っても盲導犬はいつも話題の中心に。おかげで町に溶け

こませてもらっている」「1頭目の盲導犬の命日と、2頭目の誕生日が同じ！何か関わりを感じる」と明るく前向きな話題が。和やかな雰囲気にも包まれた式典となりました。



式典には支援者や関係者105人が参加。支援者から3組の新ユニットへ「今まで行けなかった場所にも、どんどん歩み、進んでほしい」と激励の言葉がありました。

全国盲導犬施設連合会「盲導犬受け入れ全国調査(2025)」 48%のユーザーが拒否を経験

今年1～2月、全国盲導犬施設連合会（以下、連合会）により、「盲導犬受け入れ全国調査(2025)」*が実施されました。対象は盲導犬ユーザー576人。2020年以来、2回目の全国調査です。

調査の結果、48%にあたる276人が、昨年1年間のうちに飲食店の入店拒否や交通機関での乗車拒否など「盲導犬の受け入れ拒否を受けたことがある」と回答しました。前回の52%から横ばいの状況です。受け入れ拒否以外にユーザーが社会的障壁と感ずることとしては「タッチパネル操作ができない」という回答が目立ちました。

障害者差別解消法の改正で、民間事業者による合理的配慮の提供が義務化されてから1年。協会は今後も各盲導犬育成団体と協力して、視覚障害者への理解促進をさらに進めてまいります。

*「盲導犬受け入れ全国調査(2025)」:連合会に加盟する8つの盲導犬育成団体(当協会を含む)が所属ユーザーへ聞き取り調査を実施。連合会が回答をまとめ、結果を発表

調査結果の詳細は
連合会のホームページで
ご覧いただけます



「6歳時コミュニケーション会」 盲導犬が引退するまで一緒に元気に歩くために

1月21日に神奈川訓練センターで、2月18日にはオンラインで「6歳時コミュニケーション会」を開催し、それぞれ5人と11人が参加しました。この会は、その名の通り、パートナーである盲導犬が、年度内に6歳を迎える盲導犬ユーザーが参加します。盲導犬は2歳頃にデビューし、10歳で引退するので、6歳はちょうど折り返し

地点。ユーザーのみなさんが、シニア期に向かう盲導犬と、これからも一緒に元気に歩いていくため、情報と交流の場を提供するのがこの会です。

会の前半のテーマは、シニアになっていく盲導犬の健康管理。引退犬の担当職員による犬の日々のケアについての解説動画を視聴後、ユーザーと職員がグループに分かれて話し合います。後半は、引退、代替*、引退犬飼育ボランティアなどについて職員が説明。そして、ユーザーそれぞれが、パートナーが引退を迎える頃の自分の生活スタイルに想像を巡らせ、盲導犬と歩くことへの想いを語りました。折り返し地点で一旦立ち止まり、ここからも元気に、安全に、楽しく歩きます。

*代替:盲導犬の引退などにより、新たな盲導犬をパートナーとして迎えること

「6歳時コミュニケーション会」は、仙台、神奈川、富士、島根の各センターで行っています。今回のようなオンライン開催は、遠方のユーザーも気軽に参加できます



2025年度 事業計画・収支予算

盲導犬育成事業

- 1 視覚障害者への歩行指導と盲導犬賞与
 - ・35ユニットの盲導犬を育成
- 2 犬の飼育及び訓練
 - ・候補犬100頭を訓練
 - ・盲導犬の基準を満たす犬40頭を育成
 - ・100頭の子犬を安定確保
 - ・100頭をパピーウォーカーに委託、安全かつ健康にパピーを育成
 - ・今期で契約満了となる島根あさひ盲導犬パピープログラムの今後の運用等を協議
- 3 視覚障害者在宅生活訓練
 - ・全拠点で1,000コマの在宅訓練を実施
- 4 視覚障害リハビリテーション相談
 - ・短期視覚障害リハビリテーション
 - ・スマイルワン仙台で5回実施。うち1回は中学生が対象
- 5 視覚障害児キャンプ
 - ・スマイルワン仙台で開催
- 6 各種講習会の開催
 - ・関係団体との連携
 - ・慶應義塾大学病院と共同研究中の「ロービジョンケア・ハブ」の運営を継続
- 7 各種研修会への参加
 - ・盲導犬の引退は約35頭。富士ハーネス引退犬棟及び引退犬飼育ボランティアと連携し、引退犬のQOL向上に努める
 - ・ケネル業務の質の向上と効率化
 - ・疾患を早期発見し、発病件数を低減
- 8 盲導犬ユーザーへのフォローアップ(FU)
 - ・1年以内のアフターケアの充実を図りながら、年1回の定期FUを実施
 - ・歩行の安全性確保のための問題解決型FUを実施
- 9 盲導犬訓練技術の向上
 - ・新資格制度に則り、目標設定を行い、OJTに取り組む
 - ・拠点を跨いだ現任研修に取り組む
- 10 各種研修会への参加
 - ・協会内外の各種研修会等への参加、自己研鑽、自主研究を奨励
- 11 犬舎・施設改修整備
 - ・広島訓練センター開設に向け打ち合わせ等を実施

盲導犬歩行指導員等育成事業

- 1 協会が運営する訓練士学校の学生3人を職員として採用
- 2 盲導犬准訓練士資格、盲導犬訓練士資格、盲導犬歩行指導員資格の取得に向け、職員6人を養成

調査研究事業

- 1 盲導犬の人工繁殖・育種技術の研究継続及び疾患改善へ向けた調査
- 2 大学との研究協力・連携
 - ・遺伝子解析含め盲導犬成功率との関連性解明に継続して協力する

視覚障害支援事業

- 1 盲導犬歩行についての理解促進
 - ・視覚障害リハビリテーション施設・視覚支援学校・当事者団体向けの盲導犬体験歩行会を75回、盲導犬説明会を24回、当事者・支援者向けの盲導犬情報セミナー

- を4回、以上を開催
- 2 ユーザーコミュニケーション
 - ・出発式や盲導犬6歳時コミュニケーション会を実施
 - ・「パートナーズ」と「盲導犬通信」の発行、オンライン交流会を開催
 - ・盲導犬ユーザーの満足度に関するアンケート調査を実施
- 3 視覚障害者在宅生活訓練
 - ・全拠点で1,000コマの在宅訓練を実施
- 4 視覚障害リハビリテーション相談
 - ・短期視覚障害リハビリテーション
 - ・スマイルワン仙台で5回実施。うち1回は中学生が対象
- 5 視覚障害児キャンプ
 - ・スマイルワン仙台で開催
- 6 各種講習会の開催
 - ・関係団体との連携
 - ・慶應義塾大学病院と共同研究中の「ロービジョンケア・ハブ」の運営を継続
- 7 各種研修会への参加

広報・普及推進事業

- 1 盲導犬や視覚障害の理解促進活動
 - ・事業者等に対し、視覚障害者への適切な情報提供や移動支援、障害の捉え方についてセミナーを実施
 - ・ユーザー在住地の首長訪問や行政との連携の際に、視覚障害者が住みやすい街づくりへの協力を依頼
 - ・大型商業施設や街頭等で盲導犬デモンストレーションを実施するほか、富士ハーネスで見学者を受け入れ、盲導犬事業への理解を促進
 - ・病院・福祉施設等を訪問し、患者・入所者への動物介在活動を実施
 - ・第31回チャリティゴルフ大会を開催
- 2 若年層への教育活動
 - ・小中学校を訪問し、盲導犬や視覚障害に関する正しい情報・知識を提供
 - ・教科書出版社への情報提供を行う
- 3 アドボカシー活動
 - ・盲導犬ユーザーから訴えのあった受け入れ拒否事例に対し、問題解決の対応を行う
- 4 広報
 - ・マスメディアでの広報活動
 - ・デジタルコンテンツを拡充。SNSでの情報発信を強化、次年度のホームページ改修に向けた準備
 - ・会報誌「盲導犬くらぶ」を年4回各5万部発行・発送
 - ・「盲導犬および視覚障害に関する意識調査」を実施し、調査結果を活用した広報活動を展開

2025年度予算

(単位:円)

科目	2025年度	前年度
1. 経常増減の部		
(1) 経常収益		
基本財産等運用益	30,000,000	25,500,000
受取会費	290,000,000	290,000,000
事業収益	31,500,000	31,400,000
受取補助金等	51,140,000	34,650,000
受取寄付金	1,226,860,000	1,103,350,000
雑収益	500,000	100,000
経常収益計	1,630,000,000	1,485,000,000
(2) 経常費用		
盲導犬育成事業費	534,880,000	535,120,000
盲導犬歩行指導員等育成事業費	44,090,000	41,240,000
調査研究事業費	15,840,000	15,310,000
視覚障害支援事業費	103,720,000	101,500,000
広報・普及推進事業費	294,470,000	246,990,000
国際事業費	23,040,000	8,410,000
助成事業費	6,660,000	0
訓練センター管理費	230,120,000	224,665,000
事業共通費(減価償却費等)	114,000,000	89,000,000
公益目的事業費計	1,366,820,000	1,262,235,000
法人管理費	263,180,000	222,765,000
経常費用計	1,630,000,000	1,485,000,000
当期経常増減額	0	0
2. 固定資産等投資活動増減の部		
固定資産等投資活動収入	0	0
固定資産等投資活動支出	474,180,000	860,800,000
固定資産等投資活動増減額	△474,180,000	△860,800,000
当期増減差額	△474,180,000	△860,800,000

・情報管理の徹底とリスク管理体制の強化

国際事業

- 1 海外等他団体の育成犬を盲導犬として認定し「認定証」を発行、海外からの旅行者に「期間限定証明書」を発行
- 2 国際盲導犬連盟(IGDF)へ理事、査察員及び委員を派遣
- 3 IGDFカンファレンス及び訓練士向けワークショップ等への職員派遣

関係団体協力事業

- 1 ユーザーやボランティアの団体との協力・連携
- 2 国内外の盲導犬関連団体との連携強化
- 3 大災害時における視覚障害者支援事業への協力
- 4 眼科医関連団体との連携強化
- 5 視覚障害リハビリテーション関連団体との連携強化

助成事業

・白杖等の歩行訓練事業助成の継続により歩行訓練事業を後押しし、盲導犬の需要増加へつなげる
・昨年度申請のあった団体のうち8団体へ助成金を交付

その他

- 1 人材育成
- 2 デジタル活用の推進、施設管理の最適化危機管理対応の見直し、働く環境の整備

スタートライン

みなさんのご支援に支えられて新しいパートナーと出会った共同訓練卒業生たち。喜びに満ち、まさにスタートラインに立ったところ

2025年2月までの共同訓練卒業生

●各ユーザーの紹介項目

ユーザー名・居住地(盲導犬歴)
盲導犬名(雄♂/雌♀) 犬種

- ①共同訓練期間
- ②パピーウォーカー名

●犬種記号

LR: ラブラドル・レトリバー
GR: ゴールデン・レトリバー

神奈川訓練センター

エルマーと歩くのが楽しい！ 少しずつ行動範囲を広げています

関さんは、電車で50分ほどかけて会社に通っています。在宅勤務の日、エルマーと駅の近くのコーヒショップまで歩き、そこで朝ごはんを食べることもあります。

以前は白杖を使って大きな不便なく出かけていましたが、4、5年ほど前から見えにくくなり、歩道のない道で、いつの間にか道の真ん中を歩いていたこともあり。そんなとき、知り合いの盲導犬ユーザーが「全盲ではなくても、見えにくい状態でも盲導犬を持てる」と話していたことを思い出しました。いろいろ調べて、盲導犬が角や段差を見つけてくれること、道路の左はじを歩くことを知りました。道のはじに寄って歩くだけでも安全に歩けるのではないかと考え、盲導犬と歩くことを決めました。

エルマーとの共同訓練は楽しかったと振り返る関さん。エルマーが伝えてくる情報に、関さんが感じる周りの様子や音、匂いや光などの情報を組み合わせ、現在地を確認しながら歩きます。人が多くてエルマーがうまく角を探せなかったり、エスカレーターを通

り過ぎてしまうこともあります。そんなときは立ち止まり、関さんが冷静に情報を捉えます。訓練半ば、迷いながらも二人で目的地の駅の改札にたどり着いたときは、うれしくて「エルマー！グッド～！」と声をかけました。エルマーもうれしくなってグルグルと関さんの足の間をくぐり、前足を上げて二人でハイタッチ！繁華街や探にくい場所など難しい状況でも、「燃えますね！」と

楽しく訓練に励む関さんの姿は、訓練士にとっても印象的だったといいます。時間がかかっても、エルマーにしっかり排泄させてから出かける工夫をしたことで、外出中の排泄リズムも安定してきました。「1年後の自分が見たら、いったい何を苦労してたの？と思うかも」と前向きです。

白杖で歩いていた頃は、億劫に感じて外に出かけることが減っていました。でも、エルマーが隣にいる今は、朝に「仕事に行くの、つらいな」と感じて、出かけてしまえば会社の行き帰りは楽しい時間です。電車の乗り換えを間



関 章芳さん
東京都福生市 (1頭目)
エルマー (♂) LR
① 2024.11.25～12.20
② 嶋田 優子さん

↑家族からみて「表情豊かて気分が顔に出やすい」というエルマー。その喜怒哀楽を、関さんはハーネスから感じます。楽しいときはガンガン歩く、気が乗らないときはテクテク歩く。わかりやすいエルマーがかわいい関さん

違えても「ここじゃないよ～、とエルマーに声をかけて、一緒に正しい道を見つけられるのがうれしい」。帰り道、一つ先の駅まで乗って、買い物をしてから家に帰るなど、寄り道をするのも増えました。二人でする共同の作業を楽しんでいます。

エルマーと暮らし始めて4か月。関さんは、これからも少しずつエルマーとの行動範囲を広げていきたいと話します。そろそろ新緑の季節。特急踊子に乗って箱根や伊豆へ、エルマーと一緒に温泉ひとり旅に行くのを楽しみにしています。



一人だった絶対にならなくなったという寄り道も、エルマーと一緒に楽しめます



同じ部屋で寝ているのに、毎朝、何年ぶりの再会のように、しっぽを振って喜ぶクラン。家では、靴下を持ってくるいたずらもしますが、ハーネスを着ければ、慎重に減速して角を教えてください、道やお店はすぐ覚えて、一度入ったお店の前では、今日は寄らないの？と聞いてくるまじめで丁寧な仕事ぶりです。動物病院では、受付まではスムーズなのに、毎回看護師さんに抱えられて診察室に入り、ダッシュで帰るかわいい姿に笑ってしまいます

笠松 忍さん さいたま市 (2頭目)
クラン (♀) LR
① 2024.11.25～12.6 ② 酒井 沙織さん



西島 勇一さん
東京都足立区 (3頭目)
フロド (♂) GR
① 2025.1.13～1.24
② 菊谷 嘉之さん

フロドは甘えん坊で、体をたくさん触ると「もっとなでて～！」と言わんばかりにグーツと体を預けるように寄せてきます。エレベーターに乗るとき、床との隙間が苦手なのか、飛び越えるように

乗ろうとします。そんなとき「ノー」と伝えると、鼻にしわを寄せて「えー・・・」という表情に。でも再挑戦してうまくいくと「ボクできた！」とニコニコ笑います。これから一緒に小学校などに行って、障害や盲導犬の理解促進活動をするのが楽しみです



萩原 徹さん
横浜市 (2頭目)
ジョン (♂) LR
① 2025.1.13～1.24
② 福島 弘治さん

「美人な女の子かハンサムな男の子をお願いします！」という私のお願いのとおり、ジョン君はハンサムボーイで、しかも仕事ぶりもきっちり、淡々とこなしていきます。現在は職場でのワン・ツー※が課題ですが、ジョン君なら必ず一緒に乗り越えてくれると信じています。ジョン君は、甘え上手で、遊びも得意な優しい男の子です。私もちの奥さんも、甘えん坊のジョン君にメロメロです。これから末永く、ジョン君、ヨロシクね！

※ワン・ツー：排泄させたいときの声かけ、ひいては排泄のこと

「リンダ」という名前を聞くと、みんな歌い出します。「リンダ、リンダ♪」や「ウララ、ウララ♪」とつい口ずさんでしまう、とってもグッドなお名前です！出会ってすぐに懐いてくれた、かわいいリンちゃん！初めて一緒に歩いた訓練センターの外周では、「あのね、ここで止まるって習ったよ！」と授業参観日の

の小学生みたいに大張り切りで、段差や角を教えてくださいました。これから小暮リンダをどうぞよろしくをお願いします



小暮 愛子さん
前橋市 (2頭目)
リンダ (♀) LR
① 2025.1.26～2.7
② 小林 弥さん

島根あさひ訓練センター

エンタは喜怒哀楽がわかりやすく、犬を見るとうれしくて「ファホファホ」と声が出るので、指示を出し「集中して!」と落ち着かせます。3頭目にして、なお学びがあり絶賛修行中。朝は夫婦それぞれが、自分のペースでエンタとの散歩を楽しみます。



スポーツジムへ行くときはタンデム*で、広島駅の人混みを歩きますが、エンタは頼りになります。春には一緒に富士山へ旅する予定。海外旅行へ向け英会話も修行中!共に成長していきたいです

*タンデム:1頭の盲導犬を2人で使用する歩行方法

中柴 健一さん 知子さん
広島県安芸郡(3頭目) **エンタ**(♂)LR
①2024.11.24~12.6 ②江連 悠子さん

富士ハーネス



望月 千雅子さん
静岡市(5頭目)
エシェル(♀)LR
①2025.1.13~2.7
②森永 和加子さん

エシェルが私の生活に飛び込んできて約1か月ですが、彼女とはずっと一緒にいたような感じがして驚いています。エシェルはとても明るい性格で、何をしてもしっぽを振って楽しそうにしているので、家族の笑顔も絶えません。ハーネスを着けて一緒に歩くときも、彼女がしっぽを振りながら歩くのがとてもうれしいです。共同訓練ではいろいろと失敗もありましたが、これからはエシェルと思い切り楽しみながら、日々共に歩んでいきたいと思っています

子供向け書籍 『盲導犬大百科』が完成しました

協会が監修

盲導犬や視覚障害について子供たちが学べるよう、協会が監修した3巻セットの書籍『盲導犬大百科』がポプラ社から発刊されました。

1巻『盲導犬ってどんな犬?』では、盲導犬の役割などの基本情報のほか、共同訓練の様子を漫画でわかりやすく解説しています。2巻『見

えないわたしと盲導犬』では、盲導犬とユーザー6組の暮らしを紹介。それぞれの見え方や感じ方、生き方や盲導犬についてユーザーが語っています。3巻『教えて!盲導犬Q&A』では、「ユーザーがスマホを見ていた、見えているの?」など、視覚障害に関する疑問に答えてい



↑当協会が監修した『盲導犬大百科』全3巻(ポプラ社 2025年)の表紙。対象は小学校低学年以上

ます。

夏休みの自由研究のほか、学校の調べ学習でも活用できる内容です。盲導犬について楽しく学びながら、見えない、見えにくい人が生きやすい社会になるにはどうしたらよいか、考えてもらえたらと願います。書籍は、書店やオンラインで購入可能です。

→『盲導犬大百科3 教えて!盲導犬Q&A』イラスト、よしださやか/ポプラ社の一部。写真やイラストでわかりやすくなるよう配慮しました



盲導犬育成を支える ボランティア LIFE

母 親の住恵さんは、子供たちに「触れ合い」を経験してもらいたいと、農業体験などに参加してきましたが、コロナ禍でそうした機会がなくなってしまいました。そんなとき、メディアで盲導犬を見たことをきっかけに、家族で子犬の世話をするパピーウォーカー(以下、PW)に興味をもちました。「大好きな犬と生活ができて、誰かのためにもなるなんて魅力的なボランティア!」と思い、PWに申し込みました。

新 しい環境に慣れるまで、パピーは夜鳴きをしたり、排泄リズムが整わず漏らしてしまうこともあります。家族の中でパピー飼育の多くを担当している住恵さんは、夜中に目覚めたり、朝早く起きてパピーの排泄をさせたり、パピー中心の生活に。

1 頭目のフレッドのときは夜鳴きがなかなか落ち着かず、訓練士に相談したこともしばしばで、



↑2年前、2頭目のエルサと宮城県北部にある栗駒山へ。エルサはみんなとペースを合わせて上手に歩きました

→3年ほど前、1頭目のフレッドと。散歩コース上にあるお気に入りの緑地公園にて。長いリードをつけて遊んだり、おもちゃの引っ張りっこをしたのも大切な思い出です

大好きな犬との生活 パピーを中心に深まる家族の絆

仙台訓練センターパピーウォーカー ●安住さん一家●(宮城県多賀城市)



→現在一緒に暮らす3頭目パピーのカレアを囲んで。左奥から順に母親の住恵さん、父親の陽さん、左手前から娘の優那さん、息子の陽仁さん。カレアはハワイ語で「幸せ」や「愛される」という意味。パピーの名前の候補を考えるのは優那さんの担当で「すべて

ケージの上に毛布をかけたり、テレビやラジオを流してみたり、試行錯誤しました。夜鳴きのたびにフレッドに近寄ると「鳴いたら来てくれる」と学んでしまうので、そうならないように意識しました。2か月ほど経つとようやく落ち着き始め、夜鳴きがなくなり、家族が寝る時間になると「まだ遊びたいけど・・・」という表情はしつつも自分からケージに入るように。

2 頭目のエルサと3頭目のカレアは、夜鳴きが落ち着くのが早かったと言います。住恵さんは「1頭目のフレッドのときは、あまりノウハウがなかったこともあり、こっちの不安な気持ちが伝わっていたの



かもしれません」と振り返ります。そんな住恵さんですが、パピーとの生活で大変だと感じたことは一

度もないそうです。「夜鳴きしてもかわいいし、お漏らししてもかわいいと思えます。愛情深く育てた分だけパピーの成長が見られて楽しいんです。いま一緒に暮らしているカレアは、夜に最後の排泄を済ませると自分でケージに入っていくんですよ」と笑顔があふれる住恵さん。

も う一つ、うれしかったことが。パピーとの生活を通して子供たちが自立し、責任感が養われたことです。以前は、住恵さんが子供たちの世話をやく場面が多かったのですが、住恵さんがパピーに時間を割くようになった今、子供たちは進んでご飯を作るように。周りを見て、考えて行動できるようになりました。

家 族みんな忙しいけど、パピーがいることで会話がぐんぐん増えました。勉強が忙しい息子も、休みの日にはパピーの散歩と一緒にについてくるんです」と住恵さん。「パピーが人に愛されて、幸せに過ごしていくことを願いながら、これからもPWを続けていきたいです」

心がふれあう

Heart to Heart

想いは盲導犬とともに歩き続ける 日本盲導犬協会が相続・遺贈セミナーを開催

今号の Heart to Heart は当協会についての記事です。協会は、みなさんからの寄付を主な活動資金として盲導犬育成事業を進めています。先日、多くの方の要望にお応えし、あらかじめ遺産の一部あるいは全部の寄付先を決めておく「遺贈」に焦点を当てたセミナーを開催しました。盲導犬ユーザーの方、関心がある方、応援して下さる方。みなさんの心と心がふれあい、思いを届け合う社会をつくる、それが私たち協会職員の願いです。

当協会では昨今、自身の財産などを視覚障害者や盲導犬の育成に役立てたいがどうしたらよいかとの問い合わせをいただくことが増えていきます。遺贈*1や相続財産の寄付*2への関心が高まっている社会の動向を受け、昨年度、初の「日本盲導犬協会遺贈寄付セミナー」を開催しました。11月28日と2月28日に協会の東京事務所で、賛助会員など7人の参加がありました。

セミナーでは、遺贈に関して専門知識を持つ弁護士が相続や遺贈について説明しました。財産の引き継ぎ方、遺言の書き方、なぜ遺言が必要

なのか、などの解説もありました。参加者からは「不動産はどうしたらよいか」「遺言執行者(遺言を実現するために手続きを行う人)は誰を指定したらよいか」「夫婦二人とも遺言書を書いたほうがよいか」など多くの質問があり、それぞれのケースに合わせて弁護士が回答しました。

協会職員は、盲導犬の基本の仕事や訓練の様子、ユーザーの日常など、協会の活動を紹介しました。協会への寄付が実際にどのように活用されているのかを知っていただく良い機会となりました。2025年度は、相続まで含めた「日本盲導犬協会 相続・遺

贈セミナー」を富士ハーネスで開催予定です。今後、他の訓練センターでの開催も検討しています。

*1遺贈：遺言書によって財産を特定の個人や団体に遺すこと。遺贈寄付
*2相続財産の寄付：相続人が受け取った財産を特定の個人や団体に寄付すること



↑セミナーでは弁護士がポイントを押さえてわかりやすく解説。希望者には、個別の時間を設けて相談に乗ることもあります

今後の「日本盲導犬協会 相続・遺贈セミナー」開催日程については、協会ホームページや会報誌などで告知をしていきます。

※各回完全予約制

メールでのセミナー案内をご希望の方は、件名に「相続・遺贈セミナー案内希望」と記入してこちらへ

➡ izou@moudouken.net

無理なく、続けられる



ナチュラループラス
The Global Healthcare Company

私たちは盲導犬の育成支援・普及活動を通じ、皆さまの健やかな暮らしを応援しています。



株式会社 ナチュラループラス 〒106-6035 東京都港区六本木1-6-1 泉ガーデンタワー35F
TEL 03-6230-3311 FAX 03-6230-3011 URL <http://www.naturally-plus.com>



株式会社インテージでは、アンケートモニターの皆さまの善意により、謝礼の一部を日本盲導犬協会に寄付させていただいております。

株式会社インテージ <http://www.intage.co.jp/>



キューモニター募集 <https://www.cue-monitor.jp/>

生まれました

2024.12.11 誕生

オス2頭
メス3頭
父犬チャド(LR)×
母犬アリス(LR)



2025.3.7 誕生

オス6頭
メス1頭
父犬エビス(LR)×
母犬ジェニファー(LR)



※北海道盲導犬協会

2025.3.19 誕生

オス1頭
メス5頭
父犬ユーポー(LR)×
母犬ハイジ(LR)



2025.3.10 誕生

オス5頭
メス2頭
父犬アンバー(LR)×
母犬テネシー(LR)



引退しました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	引退日
ブレッグ♂	行武 文子さん	高永 陽介さん	2024.12.12
エルフィー♂	山田 清子さん	降旗 秀樹さん	2024.12.13
ノビア♀	萩原 徹さん	木俣 秀樹さん	2025.1.13
ルート♂	西島 勇一さん	石井 剛さん	2025.1.13
コニー♀	小暮 愛子さん	石井 裕喜子さん	2025.1.26
ウォーム♂	杉山 美加さん	調整中	2025.2.17
キング♂	安達 実さん	熊谷 正男さん	2025.2.19
ヴェルテ♀	佐々木 千穂子さん	調整中	2025.2.23
カラ♀	荒川 明宏さん 荒川 香織さん	調整中	2025.2.26
イデア♀	坂田 清さん	調整中	2025.3.10

亡くなりました

犬名・性別	ユーザー名	ボランティア名	死亡日
イルーム♂	繁殖引退犬	久林 靖孝さん	2025.1.7
オーレ♂	中柴 健一さん 中柴 知子さん	青木 文子さん	2025.1.23
ベティー♀	佐藤 智江子さん	高橋 恵津子さん	2025.2.12
カイ♂	繁殖引退犬	中島 浩一さん	2025.2.14
アイム♂	名取 進さん	佐藤 昇一さん	2025.2.27
コノハ♀	繁殖引退犬	成瀬 晃さん	2025.3.7



元気なパピーを出産

盲導犬の繁殖ネットワークは世界に広がっています。繁殖犬候補として、2022年に当協会からイギリス盲導犬協会へ渡ったユウコ。健康に暮らし、無事に出産して「ユウコが9頭のパピーを産んだ」と現地メディアでも取り上げられました。

みなさんに 支えられて

12月11日～3月10日

犬種記号

LR/ ラブラドル・レトリバー
GR/ ゴールデン・レトリバー
AL/ オーストラリアン・ラブラッドル

委託しました

父犬	母犬	子犬名	所有者
父犬キューイ(LR)×母犬ポム(LR)	父犬クレイマー(LR)×母犬ヴィセ(LR)	サン♂	吉田 貴彦さん
		サニー♀	田邊 桂太さん
		スピカ♀	内田 こすえさん
		ソフィー♀	保科 朗子さん
		セヴァ♀	森川 美幸さん
		サクラ♀	木内 勇さん
		ティナ♀	長妻 朱美さん
		トニー♂	稲田 定博さん
		ティアナ♀	日野 瞳さん
		ツムギ♀	青山 光世さん
		テオ♂	伊藤 あやさん
		タリス♂	和田 治樹さん
父犬チャド(LR)×母犬アリス(LR)	父犬レノマ(AL)×母犬ロザベラ(AL)※2	ウォッカ♂	岩田 紀子さん
		ヴィーブル♂	宮澤 勝子さん
		ヴィア♀	森本 綾美さん
		ヴィッキー♀	川北 武範さん
		ヴェール♀	町田 幹穂さん
		ウマル♂	刀稱 尚貴さん

※1アメリカの盲導犬育成団体GEBからの凍結精液を使用した人工授精
※2レイクウッズガーデン

盲導犬育成状況

合計頭数...697頭(2025年3月31日現在)

委託前パピー	19頭	繁殖犬	41頭
パピー	76頭	PR犬	12頭
訓練犬	72頭	引退犬	189頭
盲導犬	224頭	繁殖引退犬	64頭

みなさんと協会をつなぐ

ハーネスひろば

みなさんから届いたメッセージや協会からのお知らせなどを紹介します

私 が盲導犬のことを知りたいと思ったきっかけは、夜、飲みに行ったお店に募金箱が置いてあったことでした。私は兼業農家をしているのですが、うちにも募金箱を置きたいと思い、すぐ応募用紙をいただきました。

『盲導犬くらぶ』は、見て、読んでいて、大変おもしろく、身につくこと、感動して涙が出ること、勉強になること、考えさせられることもあり、大変ありがたく読ませていただいております。

仙台市 安達産業さんより



10月23日、東京・港区のオランダ大使館で盲導犬の講演会を行いました。対象はオランダ在住経験者などが集う女性の会「デ・リーフデ会」です。デ・リーフデはオランダ語で「慈愛」。当日は会員29人が来場、駐日オランダ大使の挨拶で始まり、大使夫人には最後まで参加いただきました。



当協会の盲導犬ユーザーである須貝さんと、旧友でデ・リーフデ会会員の方が企画したこの講演会。開催に際し、オランダ王立盲導犬協会から手紙が届き、協会間や国同士のつながりが深まったと喜びの言葉をいただきました。

◀オランダに縁のある方々へ向けた盲導犬講演会。発起人の協会ユーザー須貝さんと盲導犬フリーダに、駐日オランダ大使夫人からお礼の言葉がありました



編集室より

職員研修の一環として、1月27日、神奈川訓練センターで職員研究発表大会を開催しました。仙台、神奈川、富士、島根、各センターでの予選を経て、当日は11チームが発表。仙台訓練センターで取り組んでいる、視覚障害者を対象とした「鉄道の安全な利用を学ぶ講習会」の報告や、AIの活用をテーマにした内容など、さまざまな発表があり、職員



同士がお互いの業務を知る機会にもなりました。視覚障害者の福祉向上に向けて、今後も職員一同、邁進していきます。

◀協会内の研究発表大会で1位に輝いたのは神奈川訓練センターのパピー担当チーム。パピー業務の改善に向けた発表をしました

『盲導犬くらぶ』の感想やご意見をお待ちしております。

●あて先
公益財団法人日本盲導犬協会 盲導犬くらぶ編集室
〒150-0045 東京都渋谷区神泉町21-3-3F
FAX:03-5452-1267
e-mail: info@moudouken.net

●イベント情報はホームページやSNS上に掲載しております。



↑ ホームページ



↑ X

わかさ生活は盲導犬の育成を応援しています



リニューアルした「声かけパンフ」の配布にご協力ください！！



配布のご協力は、右のQRコードからアクセスまたは「盲導犬サポートSHOP」をご覧ください。



一般社団法人
盲導犬総合支援センター

盲導犬総合支援センター
https://goguidedogs.jp/
盲導犬サポートSHOP
https://www.gomoudouken.net/

みなさまからの応援は、補助犬育成及び障がい者の社会参加の支援活動に役立ちます。